

Okayama Shoka University Shodai365

学報2007/3月号

Vol.87

岡山商科大学学報

2007年(平成19年)3月29日発行



大連市内の風景

アジアビジネス専攻始動!

CONTENTS

〈商大トピック〉

- 新規開講 ファイナンシャル・プランナー講座・岡山講座
- 協定締結 岡山県信用金庫協会・中国税理士会岡山県支部連合会

〈キャンパスキャンパス〉

- 陸上競技部 津山駅伝5連覇
- 柔道部 優勝決定戦で商大生新旧エース対決
- 卓球部 男子で団体、シングル、ダブルス三冠

商大 トピック

Topic 1

435名が卒業 第39回学位記授与式



答辞を述べる佐藤雅浩さん

平成19年3月22日(木)、本学体育館にて学位記授与式が挙行され435名が卒業を迎えました。井尻学長や吉備学園難波理事、同窓会西山会長からの祝辞の後、卒業生を代表して産業経営学科の佐藤雅浩さんが「助け合ってより良い社会を築いていきたいと考えています。一日も早く、社会に貢献できる戦力となれるよう努力は惜しみません」と答辞を述べました。

式後は、キャンパスのいたるところで別れを惜しむ卒業生や教員の姿が見られました。

●大学院

- 商学研究科……………17名
- 法学研究科…………… 4名
- 経済学研究科…………… 2名

●学部

- 商学科……………170名
- 産業経営学科…………… 45名
- 国際観光学科…………… 34名
- 法学科…………… 96名
- 経済学科…………… 67名

Topic 2

人材育成で岡山県信用 金庫協会と協定

岡山県信用金庫協会と本学は平成19年2月9日(金)、人材育成の取り組みについて協定を締結しました。協定では、同協会から金融教育に関する講師が派遣され学生教育を行うものとする。一方、大学からも

各信用金庫やその取引先企業へ研修等などの出前講座として教員を派遣する。また、各信用金庫は学生のインターンシップの受入や学内での企業説明会に参加するものとなります。協定締結式では、同協会の

信用金庫協会と岡山商科 連携に関する協定書調印



粉川禎之会長と井尻昭夫学長とが協定書に署名しました。本学が金融機関との協定を結ぶのは初めてであり、この協定を機として金融関係を目指す学生のサポートを強めていきたいと考えます。なお、同協会は岡山県内の8信用金庫が加盟しています。

Topic 3

中国税理士会県支部連と インターンシップ制度で協定 全国の私立大では初

中国税理士会岡山県支部連合会と本学は平成19年3月7日(水)、インターンシップ制度の協定を締結しました。協定では、税理士を目指す2年生・3年生を夏季休暇中にインターンシップとして同会加盟の税理士事務所へ派遣します。学生は、税務業務や事務処理などを通して実際の税理士の仕事を体験します。また、事前研修として同会から講師を招き、税理士の仕事について講義いただきます。

中国税理士会岡山県支部連合会・岡山商科 インターンシップ制度協定書締結



また事後研修では、本学の会計教育センターがインターンシップで学んだことをフォローアップします。協定締結式では、同会の国富樫雄会長と井尻昭夫学長とが協定書に署名しました。このような、税理士会と大学との間でインターンシップ制度の協定が結ばれるのは、全国の私立大学では初めて、また国公私立を通じて中四国初となります。

Topic 4

個人金融資産のホーム ドクターを育成 平成19年度「ファイナンシャル・ プランニング講座」を開講

平成19年度より、ファイナンシャル・

プランニング講座を新規開講いたします。

当講座は、法・経・商全学部の学生を対象として開講いたしますが、定員(10名程度)を設けて一般社会人の受講も受け付けます。

講座は、本学商学部坂下晃教授を中心に、外部講師として、高林宏一氏(CFP)をはじめ、実務の第一線で活躍するファイナンシャルプランナーの方々をお迎えし、FP技能士の3級、2級、AFPの資格取得を目標に開講いたします。

個人金融資産のホームドクター的存在として、FPビジネスが注目を集めている近年にあって、資産運用について幅広く、そして深く知識を持つ人材を、本学で育成します。

※社会人の方で、受講を希望される方は教学部教務課(TEL086-256-6653)までお問い合わせ下さい。

Topic 5

地元岡山について学ぶ 平成19年度「岡山講座」を開講

本学では、平成19年度4月から教養科目として「岡山講座」を開講いたします。この科目では、岡山ペンクラブの方を講師にお招きし、岡山にまつわる人物や歴史などについて講義を行います。

講義概要は以下のとおりです。

講義内容	講義担当者
①奈良時代を代表する政治家、文化人吉備真備について	高見 茂氏
②政治家犬養毅とアジアの志士たち	
③岡山県人は、どのようにイメージされているか	赤井 克己氏
④岡山を代表する2人の銀行経営者、守分十と吉田憲治	
⑤岡山洋学の系譜をたどる	日高 一氏
⑥新聞創成期に活躍した岡山人記者	
⑦地域開発と県民性	
⑧テレビドキュメンタリー「における「やらせ」	糸島 誠氏
⑨岡山空襲の実態	下山 宏昭氏
⑩殉教者の時いた種	
⑪金田一さん岡山弁ですー推理小説と岡山弁から県民性を推理するー1	青山 融氏
⑫金田一さん岡山弁ですー推理小説と岡山弁から県民性を推理するー2	
⑬岡山ペンクラブ編「岡山人じゃが」ができるまでー1	山川 隆之氏
⑭岡山ペンクラブ編「岡山人じゃが」ができるまでー2	
⑮テスト	

Topic 6

大原謙一郎氏をお招きし、シンポジウムを開催

「地域再生支援センター」は、本学が商学部、法学部、経済学部の3学部体制となった2005年4月に設立されました。本学が新体制となったことを契機に地域貢献を目的として、地域の構成メンバーである自治体や企業、地域住民の皆様の地域づくりを支援しています。

センターの主要事業は3事業あります。第1に、政策提言事業。現在、モデル事業



として、岡山県新庄村と協定を結び、同村に対する徹底した調査を基に、政策提言

などを実施しています。第2に、人材育成事業。ここでは、行政関係者やNPO関係者、地域住民などを対象に、今回紹介するシンポジウムやセミナー開催などを行っています。第3に、自治体や地域住民からの受託調査事業。ここでは、岡山市や津山市、赤磐市、和気町などから行財政改革の支援要請を受けており、助言や提言などを行っています。

シンポジウムは、岡山自治体学会との共催で、2007年3月10日（土）に本学の781教室で開催されました。参加者は県内の市町村の首長をはじめ、行政関係者や議会関係者、NPOや企業関係者、地域住民、そして大学の研究者など100人を越えました。当日は、議会の開催や大学の春季休暇中などの時期にあたり、参加しにくい状況にもかかわらず、これだけの人数の参加がありましたことにまず感謝いたします。

今回のシンポジウムのテーマは「地方の文化と地域再生」であります。景観保全、福祉と雇用、産業振興、住民主体のまちづくりなどについて、地域の現状と未来を「地方の文化」をキーワードに議論し、「地域再生」の方向性について展望しました。大原美術館理事長・倉敷商工会議所会頭の大原謙一郎氏が「地方の文化と日本再生」と題して基調講演を行いました。倉敷屏風祭やくらしき花七ツ祭などのイベントを例に、大原氏は「地方は創造の拠点である。地方の文化を軸として事業を起こしていくことが東京に対して存在感を示すことができ、本当の地方分権につながる」と強調しました。パネルディスカッションでは、大原氏がコメンテーターとして加わり、坂本忠次岡山大学名誉教授のコーディネーターにより、筆者を含む4人の論者が活発に意見交換を行いました。この議論で浮き彫りになったことは、「多様」な主体の「出会い」により「文化」が創造され、それが地域の「歴史」を形成するということです。そして、

この「歴史」を評価し、それを生かしている「地域」こそがダイナミックに発展を続けているという事実であります。地域再生支援センターは、このシンポジウムで確認された方向性を基礎にその実現を目指して、今後も活動を続けていきます。

(地域再生支援センター長・経済学部教授 多田憲一郎)

Topic 7

中四国商経学会 公開シンポジウム

道州制のあり方について

中四国商経学会2006年度研究大会は、岡山商科大学を主催大学として、平成18年12月2日（土）・3日（日）に開催されました。統一テーマは「グローバル時代と地域経済」で、初日には7号館781号教室において公開シンポジウム「道州制のあり方について」が催され、関心のある多数の方々に参加しました。グローバル化している時代の中で、中・四国の地域経済がどうあるべきかという問題に結びつき、将来の中・四国地方のあるべき姿を問うものであります。

最初に、岡山県政策審議監である土井道彦氏により、基調講演「岡山県の道州制の取り組みについて」が行われ、次に、この基調講演をめぐって4名のパネラーが各々の意見を



を表明し、その後、パネラー間での積極的な議論がなされ、最後

にコーディネーターによる総括が示されました。パネラーは岡山大学の平野正樹氏（社会文化研究科 地方財政論）、広島大学の伊藤敏安氏（広島大学地域経済システム研究センター 地域発展論）、香川大学の村上博氏（法学部 行政法学）、愛媛大学の中西泰造氏（法文学部 経済政策・地域開発論）、コーディネーターは本学の岡本輝代志（商学部 商業経営論）でした。

土井氏は『岡山県広報紙晴れの国おかやま』11月号（平成18年11月5日）を資料として、「地方のことは地方で決める！」ことが必要であり、岡山県は都道府県に代わる、新しい広域自治体としての「道州制」の実現、すなわち「中四国州」の実現を目指していることを、様々な観点から説明されました。

パネルディスカッションでは、道州制の実施には多くの課題があること、国の方針である道州制の実施に向けて、様々な側面からの取り組み必要性のあること、日本の実情にあった「もう一つの地方自治」としての道州制を実施すべきこと、第28次地域制度調査会の答申による道州制には反対、など活発な議論が行われ、最後のまとめの

道州制への賛否では、パネラーの3名は条件付きでの実施に賛成、1名は現在の都道府県制の維持という結果となりました。

(経済学部教授 喜田栄次郎)

Topic 8

商店街活性化の一助に 医大前商店街ホームページ大会

平成19年2月9日（金）、本学781教室にて、高校生による医大前商店街ホームページ大会が開催されました。

本学情報教育センターでは、梅原セン



ターら が県内外の高校へ出向き情報処理科目の講義を行っています。その一環として岡山県

立岡山東商業高校では、医大前商店街の10店舗のホームページ作成の指導に取り組んでおり、今回の大会はその成果を、大型スクリーンを使用して発表しあうものです。医大前商店街の内田会長や、ホームページ作成にご協力いただいた店舗の方も観覧されました。作品には高校生ならではの工夫がいたるところに見られ、中には会場の笑いを誘うものも多数ありました。また、玉島商業高校でも同様の取り組みを実施しており、同校生徒も来学し発表が行われました。

発表会終了後は、今後の取り組みについて、医大前商店街の皆さんと梅原教授らとで意見交換会が行われました。

Topic 9

韓国清明高等学校と 友好提携

平成19年1月12日（金）、大韓民国清明高等学校から、金清極校長、生徒、保護者等計12名が来学され、友好提携調印式が行われました。この友好提携は、教育、学術および文化上の協力関係を発展させるための学生交流を目的としたものです。調印式後は学内を視察。視察中、日本語で本学職員とやりとりしている生徒の姿も見られました。



キャンパス

キャンパス

商大・学生魂ここにあり!

陸上競技部津山駅伝で5連覇

●商学部・商学科3年 山崎 一樹



5連覇でフィニッシュする大森光選手(1年)

本学陸上競技部は、11月19日に実施された津山競技場を発着とする第24回津山駅伝競走大会において5連覇を成し遂げることができました。

前年まで4年連続優勝で臨んだ今回は、今年は優勝を途切れさせられないというプレッシャーの中、私たちの目標だった5連覇を達成できたことは大変嬉しく思っています。ここに至るまでの道は決して楽なものではありませんでした。苦勞の連続でした。正直、今回は他チームの力が向上し、優勝の危うさを感じていました。そんな中で選手が故障したり、数々の問題が発生しましたが、皆で励まし合いながら乗り越えてきました。私はブロック長という立場でしたので、何としても連覇を途切れさせてはならないという重責を感じながら選手の気持ちを盛り上げ練習に励みました。選手全員が一丸となり、そうした気持ちを持って練習を積んだことでこのような結果を残すことができたと思います。私だけでなくみんなを上手くまとめあげてくれた4年生、そしてそれについてきてくれた下級生、そして監督、コーチを始め他のブロックのチームメイトたちの支えがあったからこそ成し遂げられた結果だと思います。この5連覇を達成したチームの勢いが第50回中四国学生駅伝競走大会5位入賞、さらに第55回えびす駅伝競走大会では強豪倉敷高校に圧勝し2回目の優勝へと導いてくれました。この結果に満足することなく、今後とも精進努力し本大会6連覇は勿論ですが、更に上を目指して頑張っていこうと思います。

●最近の成績

12月 3日 第50回中四国学生駅伝競走大会 5位
2月11日 第55回えびす駅伝 優勝

平成19年度全日本柔道選手権大会 岡山予選会を終えて

●附属図書館図書課 柔道部コーチ 菊川 顕

2月4日、岡山武道館にて平成19年度全日本柔道選手権大会岡山予選会が開催されました。この大会は、全日本柔道選手権大会へとつながっています。岡山予選、次に中国予選を勝ち抜いてやっと本大会に出場できます。本大会からすれば予選の予選ですが、岡山県内の柔道選手が集まり優勝を争う岡山県柔道選手権大会を兼ねています。

試合には本学のOBや学生も出場しており、上位に残れば皆知ったもの同士の練習仲間です。ベスト4ともなれば実力は拮抗しており、誰が勝ってもおかしくはありません。そんな理由もあってか、毎回優勝を意識せずに、目の前の試合のことだけを考え大会に臨んでいます。

決勝戦は、本大学柔道部の学生であり、後輩でもある大村選手との対戦となりました。普段から一緒に練習しているのでお互いのことはよく分かっています。お互いに全力を出し切り、試合を終えました。勝敗はその日の調子や運にも左右されます。今回は優勝できましたが、最終的な目標は全日本選手権出場です。岡山県予選が終わってもすぐに中国予選が始まります。岡山県予選優勝で満足することなく、大村選手と共に全日本選手権に出場できるよう練習を積んでいきたいと思います。

卓球部 男子で三冠

平成18年12月15日から16日にかけて行われた第38回中国新入学生卓球選手権大会で、本学卓球部が、男子団体、男子シングル、男子ダブルスにおいて優勝、見事三冠を達成しました。女子においても上位入賞を果たしております。結果は以下の通りです。

◆男子団体

岡山商大A…第1位
黄 圳 (商1)
廣田 亮 (商1)
田中和大 (経2)
国本孝志 (商1)

◆男子シングル

黄 圳 (商1) …第1位
田中和大 (経2) …第2位

◆男子ダブルス

黄 ・大廣…第1位
福田・国本…第3位

◆女子団体

岡山商大…第3位
亀石夢実(法2)
乗松美歩(法2)
下永幸枝(商2)

◆女子シングル

亀石夢実(法2) …第3位

◆女子ダブルス

下永・乗松…第2位

新庄村に対する「想い」をまとめた報告書を作成

前号で掲載いたしました、新庄村まるごと体験ツアー事業。この事業では、学生12名が新庄村を訪れ、自らが企画したイベントを通じて、新庄村の小中学生などと交流を行い、村の将来について語り合いました。

この度、同事業への参加学生の新庄村に対する「想い」をまとめた報告書が作成され、新庄村役場の方々や村内の小中学生に届けられました。本事業を企画した岡山商科大学地域再生支援センターの多田センター長(本学経済学部教授、地方財政論担当)は、「この報告書が新庄村と地域再生支援センターの地域づくりにおける“心の架け橋”となることを願っています」と話していました。

文化会本部主催 奈良・大阪研修旅行に44名の学生が参加

2007年1月31日(水)、2月1日(木)の2日間、文化会本部主催の奈良・大阪研修旅行に44名の学生が参加しました。

1日目は、奈良公園・奈良の大仏・法隆寺を見学し、日本の文化について学びました。

2日目は、大阪のUSJに行き思う存分楽しみました。ちなみにフリーパスなので、アトラクションは乗り放題でした。

今回の旅行には留学生も24名参加し、日本人の学生とも仲良くなることができ、皆、とても充実した時間を過ごすことができました。



学位記授与式成績優秀者表彰

■商学部

[商 学 科] 劉 佳、田中麻依、易 玲、宋 佳琳、高橋誠治、岡本夏織、杜 爽、魏 芳、柴原隆介

[産業経営学科] 蘇 晨、佐藤雅浩、高橋繁夫

[国際観光学科] 朴 銀娉、久田隆史、江 南南

■法経学部

[法 学 科] 森田志織、長久真子

[経 済 学 科] 城市浩輔、勝瀬 繭

奨学金(学生支援機構)説明会

学生支援機構奨学金の説明会を開催します。

希望される方は必ず出席してください。

●日時:4月10日(火)、11日(水)、12日(木)

●場所:222教室(予定)

課外活動表彰

賞名	部名	受賞者氏名	大会名・種目等	成績
優秀スポーツ賞 (1名)	卓 球 部	王 遠	第56回中国学生卓球選手権春季大会(17.5.26)	優 勝
			中国リーグ6期(春季3回・秋季3回)連続優勝(個人戦)	優 勝
スポーツ賞 (7名)	卓 球 部	米本 拓郎	第56回中国学生卓球選手権春季大会(17.5.26)	優 勝
	ゴ ル フ 部	花江 一優	中四国学生ゴルフ競技パートナーズカップ(17.11.4)	優 勝
	ソフトテニス部	小林 隆三	第50回中国四国学生ソフトテニス選手権(16.10.11)	優 勝
	柔 道 部	坪井 孝文	平成17年度中国四国学生柔道体重別団体優勝大会(17.8.28)	優 勝
		村上 俊太	平成17年度中国四国学生柔道体重別団体優勝大会(17.8.28)	優 勝
	陸 上 競 技 部	森下 浩成	第25回中国四国私立大学対校選手権 三段跳び(16.6.12)	優 勝
栗山 真治		第27回中国四国私立大学対校選手権 5000m(18.8.8)	優 勝	

商師会 だより

商師会とは・・・岡山商科大学商学部の卒業生で構成される組織で、現在高等学校などで教鞭をとる県内外約二百名の教員が所属している。

「商大との係わり」

玉島商業高等学校
入江 誠

教壇に立ち、生徒や先生方と学校生活を過ごし始めて7年が過ぎ、私も三十路を歩み始めてしまいました。この7年間はあっという間に過ぎていきましたが、とても充実した日々を過ごしました。

私がこの教師を目指し始めたのは高校時代からです。私の高校時代は、バレーボールとともに生活する毎日で、バレーボールがあったからこそ今の私があると断言することが出来ます。高校時代に教えていただいた恩師に影響を受け、大きな成長となり、教えることの楽しさや部活動の大切さを学び、この高校時代がなければ私は今、この職業には就いていないと思います。

高校卒業後、1年をあけて岡山商科大学に入学しました。もちろんバレーボール部(排球部)に所属し、先輩や後輩、友人と出会い、汗を流し、しっかりと遊び、ほどほどに勉強もし、多くのことを学び・経験し、現在の私を作り上げることができました。この4年間は社会人として必要となる基礎をしっかりと築くかけがえのない時間となりました。

教師として働き始めてからは、毎日が勉強で充実し、自分が少しずつ成長していることを感じる事が出来ました。現在の社会は、変化し続けており、それに対応し、社会生活に密着した知識に触れさせ、体験させ、考えさせられるような授業を生徒に少しでも教えることができればと考えています。

大学時代に得たかけがえのない実社会での経験をふまえながら、教科指導はもちろんですが、生徒指導や部活動の指導などまだまだ未熟で力不足ですが、周りの先生方から教えていただき、多くを学び、教師として成長すべく一生懸命に頑張っています。

現在は、玉島商業に勤務し、岡山商科大学と連携をとっています。何かと商大を訪れることも多く、そのたびに大学4年間を思い出しながら教師として、生徒をこれからの社会を生き抜ける人材をしっかりと育てていきたいと思っています。

サクセスを勝ち取ろう!

就職 便り

Okayama Shoka University

学内合同企業 説明会開催



来春卒業予定者（新4年生）を対象とした「学内合同企業説明会」を今年も計3回開催しました。この会は企業の人事担当者の方に一堂に会していただき、実際に就職活動をする本学の学生にその企業の業務内容、

また職種内容等を説明していただくという恒例のもので、過去にこの会を通じて多数の学生が内定をいただいております。本学の就職関連行事の中で最も重要で最大のものであります。

本年度の第1回目は2月7日（水）129社の企業の参加のもと開催され、200名の学生が参加をしました。第2回目は2月23日（金）に111社、150名の参加。第3回目は81社、130名の参加があり、大規模なものとなりました。学生は自分に合う会社や入りたい会社を探そうと一生懸命に耳を傾け、企業の人事担当者の方もそれに答えようと熱心に説明をしてくださる光景がいたるところで見られました。この会が企業と学生の双方にとって良い「出会い」の場となってくれば幸いです。

合同企業説明会 バスツアー

学内合同企業説明会と同様、本学の恒例行事となりつつある、「合同企業説明会バスツアー」を開催しました。これまでの関西（大阪）へのツアーに加え、今年は広島合同企業説明会へもバスを運行しました。まずは1月27日（土）、京セラドームへの関西合説バスツアーです。

毎日就職エキスポ2007が開催されており、参加企業数は300社を超え、参加学生数も1万5千人に昇り、ドームの大きさのみならず、大規模なものとなりました。熱気にあふれる会場の中を本学学生も地元岡山では聞く事の出来ない大手企業などのブースを目指して広いドームの中を所狭しと歩き回っていました。また、2月5日（月）には広島サンプラザで開

催された毎日就職エキスポ2007にも参加をしました。こちら会場一杯の学生であふれかえり、就職戦線真っ只中の様子がひしひしと伝わってきました。両方のツアーともにバス2台の定員を越え、キャンセル待ちが出るほどの人気でした。これらのツアーに参加した学生達は彼らなりに「得たものを今後の就職活動で十分に活かしてくれるものと期待しています。

岡山県信用金庫協会 との協定事業

●信金セミナー

平成19年4月6日（金）午前11時～12時まで、7号館・772番教室にて、信用金庫をはじめとする金融機関の仕事について、おかやま信用金庫・人事部長 乗金雅博氏、人事課長代理 野呂公一氏のお二人をお迎えしてセミナーを開催します。対象は全学年です。就職活動本番の4年生、そして関心のある1～3年生も積極的に参加してください。

●信金学内合同企業説明会

信金セミナーに引き続き、同日午後1時～3時まで、并井記念館4階ホールにて岡山県内・信用金庫の人事担当者にお越しいただき、4年生対象の学内合同企業説明会を開催します。金融機関等を目指す学生はせっかくの機会ですので、ぜひ参加してください。

当日参加金庫（五十音順）

おかやま信用金庫 吉備信用金庫
玉島信用金庫 津山信用金庫
備前信用金庫 備北信用金庫
水島信用金庫

商大トピック

Topic 10 平成18年度学生懸賞論文 森田さん(法4)が最優秀賞

平成18年度学生懸賞論文（岡山商科大学学会主催）の結果が発表され、法学部4年の森田志織さんが最優秀賞を獲得されました。

受賞者は以下の通りです。



【最優秀賞】森田志織（法4）

「共謀罪立法の是非」

【優秀賞】宮崎 瞳（法4）

「死刑選択の基準の変化について」

【佳作】遠藤加奈（法4）

「生殖補助医療－凍結精子における死後認知請求について」

尾木亮太（法4）

「相続における非嫡出子の取扱いの違い～法の下での不平等はあるのか～」

宮脇 隼（法4）

「オーストラリアの安楽死～末期病者権利法～」

上岡政弘（法3）

「権利能力なき社団と組合－当事者能力と不動産登記について－」

Topic 11 313名が認定 特別単位認定科目

本学では、特別単位認定科目として、「インターンシップ」「実践学習」の2科目を開講しています。平成18年度は計313名の方が2単位または4単位を認定されました。

●インターンシップ

税理士法人、地方自治体等での実習…3名

●実践学習

キャリア開発論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ受講者…297名

資格・検定の取得…3名

ボランティア活動…2名

大学貢献活動（新庄村まるごと体験ツアー、ニュージーランド日本語アシスタントティーチャー）…8名

Topic 12 永年勤続 表彰

平成18年12月13日（水）、ホテルグランヴィア岡山において、永年勤続表彰式が執り行われました。これは勤続期間20年を表彰するもので、今回は経済学部佐井教授と、法学部埜村助教授の2名が表彰を受けました。



佐井教授



埜村助教授

社会総合研究所 公開講演会から（抄録）

日時：平成18年12月9日（土）15：00～

講師：小林いずみ氏（メリルリンチ日本証券株式会社 代表取締役社長）

演題：「多様な価値観に対峙する～グローバル企業での発見～」

場所：岡山商科大学 781教室

今日は「多様な価値観に対峙する～グローバル企業での発見～」というきわめて難しいタイトルなのですが、内容的にはきわめて分かりやすい話でいきたいと思えます。「相容れない正論」ということで、私の仕



事は証券会社です。証券会社は日本と同じで金融ですから、正確な業務というのが非常に重要なわけです。私がアメリカの会社の日本の支社で一番お客さまとの間に入って

苦労したことというのは、1円の違いなのです。これは何かというと、日本で金利を計算すると、小数点以下の数字というのは自動的に切り捨てにすることになっているのです。小数点以下は切り捨てです。税金なんかの支払いでもそうだと思いますけれども、端数が出るのと切り捨てで、実はアメリカ、ヨーロッパの大概の国もそうなんですけど、四捨五入なのです。ですから、例えばアメリカで、0.5セントとなったならば、それは1セントに切り上げて、0.4セントだったら0セントになるのです。皆さん、どうもありがとうございました。

◆2007年度前期「慶應MCC夕学講座」開催
および配信決定講演(平成19年3月20日 現在)

4/17(火)

丹羽 宇一郎(にわ ういちろう)
●伊藤忠商事株式会社 取締役会長、
経済財政諮問会議 民間議員
「人は仕事で磨かれる」

4/18(水)

田村 次朗(たむら じろう)
●慶應義塾大学法学部 教授
「価値創造のための戦略的交渉力」

4/25(水)

鈴木 光司(すずき こうじ)
●作家
「新しい歌をうたおうⅡなぜ勉強するの」

4/26(木)

淡輪 敬三(たんわ けいぞう)
●ワトソンワイアット株式会社 代表取締役社長
「多様性を活かす経営」

5/9(水)

林 望(はやし のぞむ)
●作家
「言葉のみがく、心のみがく~日本人としてのアイデンティティを見直そう~」

5/10(木)

太田 光代(おた みつよ)
●株式会社タイタン 代表取締役
「タイタン流 マネジメント論~爆笑問題・長井秀和・山中秀樹・橋下弁護士・5番6番・ガラタクトジョーなど~」

<対談者>

八塩 圭子(やしお けいこ)
●フリーアナウンサー、関西学院大学商学部 助教授

5/15(火)

手嶋 龍一(てしま りゅういち)
●外交ジャーナリスト、作家
「インテリジェンス戦略とは何か」

5/23(水)

義家 弘介(よしいえ ひろゆき)
●内閣官房教育再生会議担当室 室長
「教育再生 現場からの提言」

6/1(金)

川勝 平太(かわかつ へいた)
●国際日本文化研究センター 教授
「新しい美学をおこす~「強い国」から「美しい国」へ~」

6/26(火)

亀淵 昭信(かめぶち あきのぶ)
●株式会社ニッポン放送 相談役
「ラジオのはなし 35年目のリクエスト」

7/3(火)

金子 達仁(かねこ たつひと)
●スポーツライター
「日本サッカーへの“警鐘”2007」

<対談者>

戸塚 啓(とつか けい)
●スポーツライター

7/4(水)

茂木 大輔(もぎ だいすけ)
●NHK交響楽団 首席オーボエ奏者、指揮者
「『知って楽しむ』クラシック音楽鑑賞のススメ」

7/10(火)

徳岡 邦夫(とくおか くにお)
●株式会社京都吉兆 取締役専務
「伝統と革新の融合を目指して~吉兆総料理長が語る~」

7/18(水)

山田 英夫(やまだ ひでお)
●早稲田大学ビジネススクール 教授
「何故、あの会社は儲かるのか?」

7/19(木)

浅野 史郎(あさの しろう)
●慶應義塾大学総合政策学部 教授
「地方を変える、日本が変わる」

●お問い合わせ
社会総合研究所まで
☎086-256-6656(直)

◆退職教員紹介

商学部



教授 中井 透
平成3年に本学に赴任。財務管理論などを担当いただき、産業経営学科長、社会総合研究所所長などを歴任されました。



助教授 捧 富雄
平成12年に本学に赴任。観光地計画論などを担当いただきました。



助教授 伊藤 勝巳
平成11年に本学に赴任。教職課程などを担当いただきました。



招聘助教授 蘇 君業
平成18年4月、中国大連外国語学院から来日されました。中国語を担当、任期満了による退職です。

法学部

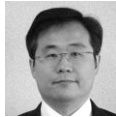


教授 藤村 一美
平成3年に本学に赴任。化学などを担当いただきました。

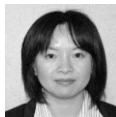


助教授 小原 将照
平成16年に本学に赴任。民事訴訟法などを担当いただきました。

経済学部



助教授 岩坪 加紋
平成12年に本学に赴任。経済原論などを担当いただきました。



講師 森元 早苗
平成16年に本学に赴任。環境経済学などを担当いただきました。

エッセー
数珠つなぎ

「土地に刻まれた戦国城下町」 商学部 佐藤昭嗣

私の住む町は、広島県福山市神辺町、岡山県との県境の町である。江戸時代には山陽道の宿場町として栄え、今もその面影を伝えている。古い町並みの南には、戦国時代から江戸時代初期の山城、神辺城跡(福山城の前身)がそびえ、町のシンボルになっているが、記録がほとんど残っていないこともあって、城の全容は明らかになっていない。

この麓で生まれ育った私にとって、この山は子供の頃の絶好の遊び場、隠れ家作り・忍者ごっこと数々の思い出を秘めながらも、多くの人がそうであるように、成長するにつれ、あまりにも日常の風景として埋没し、日々目にする景色の一つにすぎなくなっていた。

ところが、5年程前のある日の夜のこと、ふとしたことから、この見なれた風景を一変させる発見があった。

授業を終えて帰宅し、ビールを片手に前日入手した古地図、明治初年に地租改正に伴って作成された地籍図(土地一筆ごとの区画を記した測量図)のコピーを何げなくながめていた。城跡のすぐ麓に広がる水田の土地区画は複雑で、そこにはまっすぐ通り抜

けられない細い道が迷路のように走っている。さらにその外郭には、幅20メートル前後で二重・三重の帯状に連なる土地区画もある。

どうもこれはもともと、農地として開発されたものではなさそうだ。農地になる前の何らかの土地利用の痕跡ではないか。

帯状の細長い区画は堀のあと、迷路のような道は、敵の侵入を防ぐ武家屋敷郡の街路、堀のすぐ外側を街道に沿ってのびる古い町並みは、城下の町場の名残りと考えられないか。そうであれば、神辺城は山城が単独で築かれていたのではなく、麓に城下町が広がる新たな景観が想定できそうだ。これがこの夜の一応の結論であった。ビールもついつい進んでしまった。

その後より詳細な検討を加えつつ、私は機会あるごとにこのことを触れ回った。地元の教育委員会も動いた。一昨年、ついにその一面に採掘調査に鍬が入り、城主の居館に伴う庭園の一部が検出され、昨年の発掘では、武家屋敷を取り囲む戦国時代の堀の一部も確認された。そのつど、発掘調査の仲間と祝杯を上げながら、100年先、あるいは200年先にもなるであろう全容解明を夢見ている。

■アジアビジネス専攻の概要について

アジアビジネス専攻長 蒲 和重

2007年4月、岡山商科大学商学部商学科にアジアビジネス専攻を開設します。この専攻の目的は「特化された金融証券知識・中国ビジネス知識の修得」であり、そのもっとも際立った特徴は1年次に「1年間の中国留学」を行なう点にあります。2年次以降の特徴はビジネスに関する「徹底した専門教育」と「コーオプ教育（産学連携教育）」という言葉に集約されます。このような特色ある教育によって「コミュニケーション力に長け、アジアを中心として国際的に活躍できる人材」の育成を目指しています。

「1年間の中国留学」は中国大連市にある大連外国語学院大学で行ない、本学独自のカリキュラムによって前・後期ともに17週ずつの講義が行なわれます。特に、中国語については午前中のすべての講義時間を費やして、中国語検定2級以上、HSK漢語水準考試6級以上（自由に日常会話ができるレベル）を目指した授業が行なわれます。午後の講義についてはそのほとんどが英語になり、TOEICの点数を入学時から200点アップすることを目標としています。また、現地でのインターンシップも予定されています。

この留学準備のため、本専攻では通信教育と本学での勉強会を

組み合わせた入学前教育を行なっています。その内容は中国の文化・歴史・習慣などのほか大連外国語学院からの招聘教員による簡単な中国語の授業も行なっています。さらに、入学式直後には「留学前合宿」を行ないます。これはビジネス概論Ⅰの集中講義を兼ねるとともに、留学前の最終調整になっています。また、「入学前保護者会」も開催させていただいています。なお、「留学に関するQ & A」という冊子を作成してさまざまな問題に対応しています。

2年次以降の専門教育については、所属教員それぞれの専門科目がカバーする分野を分析し、どのような教育的効果が期待できるのかを考え、それらの配置を決定しています。さらに、専門科目のうちの実に9科目について1週間に2時限の「徹底した専門教育」を行ないます。これらの講義にはディスカッションも多く含む予定ですが、地域を代表する企業経営者を招き、実際のビジョンやビジネスパーソンとしての意見などを語ってもらう機会なども予定しています。このような産学連携教育は「コーオプ教育」と呼ばれています。

最後に、アジアビジネス専攻に関わっておられる教職員の方々に感謝します。今後ともご指導ご鞭撻のほどをお願いします。

作家の視点

作家・本学非常勤講師(第十七期卒卒)

石井敏弘

非常勤講師としての仕事も二年目に入ろうとしています。

昨年は急な話だったので、何の準備もしないまま講義に突入してしまい、テキストも既存の出版物の中から選定して使用しましたが、今年はなんとか教材の用意ができそうです。

前期に使用する「ノー・ソリューション」は、私の過去の短編小説三編を収録したのですが、単純にそのまま並べたわけではありません。推理小説の構造や謎解きの展開を段階的に理解してもらうため、初級、中級、上級レベルのミステリーという順序になるように、作品を選定し、大がかりな改稿を加えています。

ミステリーの魅力の原点は、「犯人は誰か」ということにあります。「ノー・ソリューション」はそれらの要素を各レベルで満たす、絶好の教材となったと思います。しかも、三話目の「うつし世は悪夢」は、私が過去に書いた短編小説の中でも、ほとんど最高の出来になった手応えを感じています。

後期は「デウス・エクス・マキナ」という、私的歴史文学論を展開するものを執筆中です。後期は文学の発祥と発展、その中における推理小説の位置づけなどを行う必要があるのですが、これも既存の出版物でどうしても間に合いませんでした。

今年度からは、こうしたきちんとしたテキストを柱に講義が行えるので、少しは楽になりますし、また普段、小説に限らず書物を読むことが少なくなっている学生たちにも、多少は興味深いものが提供できるのではないかと思います。

またこの冬から春にかけて、さらに様々な情報を収集、勉強させていただくことも多くありました。それらを生かして、昨年度よりもさらに中身のある話ができれば良いのですが……。

日本経済は甦るか

イチオシ!
この一冊
10冊

あのタイタニックと経済とは、どう結びつくのでしょうか。過信が大きな遭難事故を導いてしまいました。1980年代までの日本経済には自信がありました。モノ作りの技術、労働市場に整備された三種の神器、銀行不倒神話に土地神話。しかし、90年代に入って生じたバブル崩壊は、自信喪失の歴史であり、あのタイタニックの惨事を思い起こさせます。本書で描かれているのは、シュンペーター、フィッシャーといった過去の賢人たち、そして今を生きる賢人（エコノミスト）たちの英知を活かしながら、筆者自身の見事な分析力、巧みな筆さばきで描かれたバブル崩壊後の日本経済です。時には、こうした骨のある本に挑戦してみるのも良いのではないのでしょうか。吉野作造賞に輝く本書が、文庫本になって読みやすくなりました。

ところで、経済を学ぶことは、人生を学ぶことであると私は思っています。「温故知新」といいますが、昭和恐慌、世界恐慌、バブル崩壊といった歴史から学ぶことは、政策の失敗であり、人間の失敗です。同時に、そこから教訓も得ることができます。自信にあふれている方、自信喪失状態にある方、日本経済の失われた15年はなぜ15年にも及んでしまったのか、ともに考えてみませんか。とくにタイタニックの惨劇を語るところには迫力があり、経済を学ぶ面白さを教えてください。骨応えのある一冊、今回は本書を紹介したいと思います。（経済学部教授 河野快晴）

「経済論戦は甦る」竹森俊平 日経ビジネス文庫



編集後記

春といえば、出会いと別れの季節。本学でも多くの卒業生を送り出し、多くの入学生を迎え入れます。私も春になるとある出会いがあります。スギ花粉です。花粉症の私にとって、春は辛い季節です。

いよいよアジアビジネス専攻がスタートします。4月から一年間の中国留学。留学先である大連市にはスギ花粉は飛んでいないようです。花粉症でお悩みの方、アジアビジネス専攻をお勧めします。

●ご意見・ご感想等は、総務企画課学報担当まで E-Mail/gakuho@po.osu.ac.jp

発行所

岡山商科大学
〒700-1860 1 岡山市津島京町2丁目10-1
電話(086)252-1064(2代)

印刷

山陽印刷株式会社